

ピアノ学習における連弾の可能性

—本学の授業実践を通して—

吉 田 め ぐ

はじめに

本学では幼稚園免許および保育士資格取得のため、ピアノの授業「器楽」が必修科目となっている。ピアノ初心者の増加や限られた授業時間の中で指導を行う難しさなどから、効率的なピアノスキルの向上や高い学習成果を得るため、保育者養成校で授業を行っている指導者たちの研究発表や報告をもとに、ピアノの授業内容や指導法を検討し試みている。本研究では、ソロとは異なる学習形態であるピアノ連弾に着目し、ピアノアンサンブルの楽しさや面白さを体験することから生まれる学びについて観察する。

保育所保育指針および幼稚教育導要領解説では、『表現』という項目で音楽が取り扱われており、「音や音楽で十分に遊び、表現する楽しさを味わうこと」「音楽に親しみ楽しむ」など、「楽しむ」という言葉が一つのキーワードとなって繰り返されている⁽¹⁾。しかし、多くの学生が正しい音とリズムで間違えずに弾くことを意識するあまり、音楽を楽しむという余裕をつくることは非常に難しい。ピアノ連弾を通しソロでは得ることのできない音楽体験から学生のピアノにおける心境変化や学習効果を期待し、「音楽的能力の習得」「教育的効果」「学生のピアノに対する心境の変化」の3つに着目し授業実践より得られた連弾の成果について検討する。

1. 研究の目的

本研究の目的は、保育者養成校におけるピアノ学習について、連弾授業実践を通して得られる学習効果を検討することである。

保育者養成校における連弾授業実践について研究されたものは少ないが、高木ら(2008)、田中(2015)、森村ら(2016)が養成校における連弾の研究を行っている⁽²⁾。本研究では、これらの先行研究から導き出された結果をもとに新しい視点を加え実践を行った。

高木らは、連弾における「他者を意識した演奏」について着目している。保育者として第一に求められるピアノ技能とは歌唱伴奏力であり、乳児という他者を意識した演奏でなければならないことから、連弾の活用は初心者の指導にとどまらず大

変意義深いものであると述べている。確かに、連弾が他者を意識するきっかけとなり、タイミングの取り方や息の合わせ方を習得できる有効な手段と言えるだろう。しかし、他者と一緒に演奏するという点から連弾を通して得られる成果は、「他者を意識する」という点だけではない。他者と一緒に音楽をつくりあげる達成感、他者と音楽をすることから育まれる協調性といった、教育的効果に結びつけることができるのではないだろうか。

一方、田中は連弾を実践することで「学習意欲が高まる」ことを述べており、学生の感想から学習意欲の向上についてまとめている。連弾を通し学習意欲が向上するという結果は、学生のピアノに対する考えや取り組み方に変化があったということである。本研究では、学習意欲の向上という視点をさらに拡大しなぜ意欲増加につながったのか、学生のピアノに対する心境の変化として自由記述アンケートより観察する。

また森村らは、教員と学生との連弾をポイントに「感性を引き出す教授法の一つ」について着目している。教員の技術や音色、表現などを間近で感じ取ることができることや、連弾による音の増加とアレンジによる音の深みや広がりがさらに加わることが、学生自身の感覚や価値観、表現の幅を広げるきっかけになったと考えられることから、感性を引き出す教授法の一つとして大変有効であると述べている。確かに連弾を実践することで、ソロでは得ることができない感性を引き出すことができる可能性があるといえる。しかし、保育者養成校で実践する連弾において感性の教授という点だけに着目することは、連弾の有効性を示すうえで説得力に欠けるだろう。森村らは、感性に響くものを「素敵」と表現し定義しているが、本研究では感性だけでなく感受性という部分から、保育者としてピアノを弾くに当たり必要とされる「音楽やピアノを楽しむ」という点に目を向けたい。

先行研究より連弾での学びは複数得られることが明らかになったため、本研究ではそれらを「音楽的能力の習得」「教育的効果」「学生のピアノに対する心境の変化」の3つに分類し、授業実践から得られた連弾の有効性について検討する。

2. 研究の対象と方法

1) 対象者・授業科目・実践期間

〈対象者〉

関東短期大学「こども学科」2年生 20名

表 1 対象者の経験年数

経験年数	人数
経験者(3年以上)	6名
経験者(3年未満)	6名
初心者(短大に入ってからピアノを始めた)	8名

〈授業科目名と実践期間〉

平成 28 年度 通年選択科目「器楽Ⅱ」

平成 28 年度 前期選択科目「アドバンストピアノ」

2) ピアノの設置状況 (学習環境)

本学に置かれているピアノは、グランドピアノおよびアップライトピアノといったアコースティックピアノがほとんどである。主にピアノホールで授業を行い、レッスンはグランドピアノを使用し、学生の個人練習はアップライトピアノを使用している。学生は、授業時間常にピアノに触れることのできる環境となっている。

表 2 ピアノの設置状況

場所	ピアノの種類	台数
ピアノホール	グランドピアノ	4台
	アップライト	10台
スチューデントホール	アップライト	12台
レクチャーホール	グランドピアノ	1台
	アップライトピアノ	1台
その他 (教室等)	グランドピアノ	2台
	アップライト	5台
	電子ピアノ	2台

3) 使用教材

連弾の相手は組みたい者同士学生にペアを決めさせた。教材は「初級・中級・上級」の3段階でレベル別の楽譜を用意し、実際に楽譜を見ながらペアで話し合い学生自身が弾きたい曲を決定した。

ピアノ学習における連弾の可能性(吉田)

表 3 使用教材一覧

経験年数	使用教材
上級	サン=サーンスより「動物の謝肉祭」 ⁽³⁾ 美しく響くピアノ連弾（上級×上級）ディズニー1、2 ⁽⁴⁾
中級	「いちばんやさしいピアノ連弾」ディズニー名曲集 ⁽⁵⁾ 両方主演の連弾レパートリー「クラシック」 ⁽⁶⁾
初級	「大村典子ファミリーピアノ連弾集」1、2 ⁽⁷⁾ 両方主演の連弾レパートリー「ディズニー名曲集①」 ⁽⁸⁾

4) 授業計画

2年生の選択科目「器楽Ⅱ」と「アドバンストピアノ」の授業の中でピアノ連弾を実践した。

器楽Ⅱでは、毎時間ソロレッスンの課題（子どものうた弾き歌いなど）を終えた学生で連弾に取り組みたい学生を対象に連弾のレッスンを行った。

「アドバンストピアノ」では、全15回の授業で連弾実践を行い、第15回目で発表会を行った。

表 4 「アドバンストピアノ」授業計画表

授業回数	授業計画	内容
1	ガイダンス	授業説明、ペアを組み曲決め
2-7	前半 45分...ソロレッスン 後半 45分...連弾レッスン	譜読み 自分のパートを弾けるようになること
8	中間発表	全員が感想を述べる ペアでどうだったか話し合う
9-13	前半 45分...ソロレッスン 後半 45分...連弾レッスン	タイミングや息を合わせる 曲を深める
14	リハーサル	レクチャーホールにてリハーサル 本番に向けて最終練習
15	発表会	レクチャーホールにて発表する 本番後、全員で振り返りを行う

3. 結果

1) 音楽的能力の習得

連弾実践を通し習得した音楽的能力について、「リズム」「テンポ」「通して弾く」「2人のタイミング」と4つの項目をおいた。表5は、授業終了後に実施したこれらの項目についてのアンケート結果である。

表5 音楽的能力習得に関するアンケート

正しいリズム		一定のテンポ	
よくできた	70%(14名)	よくできた	80%(16名)
できた	20%(4名)	できた	20%(4名)
あまりできなかった	10%(2名)	あまりできなかった	0%
できなかった	0%	できなかった	0%
通して(止まらずに)弾けた		2人の息とタイミングを合わせる	
よくできた	45%(9名)	よくできた	75%(15名)
できた	35%(7名)	できた	25%(5名)
あまりできなかった	20%(4名)	あまりできなかった	0%
できなかった	0%	できなかった	0%

2) 「教育的効果」

連弾演奏において工夫した点について自由記述させた。教育的効果に結びつくと考えられる記述を抜粋し表6にまとめた。

表6 自由記述抜粋

<ul style="list-style-type: none"> ・2人で息を合わせるために「せーの」などのかけ声をした ・お互いの音を聞いて合わせるようにした ・どのように弾きたいか話し合っ曲のイメージを広げた ・パートナーとのコミュニケーションを大切にした ・メロディと伴奏のバランスに気を付けた ・友達との話し合いが増えて仲が深まり息が合うようになった

3) 「学生のピアノに対する心境の変化」

授業終了後、本実践の授業感想を自由記述で書かせた。学生のピアノに対する意識の変化が見られたものを抜粋し表 7 にまとめた。

表 7 自由記述抜粋

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 1人で弾くよりも音が増えて華やかな響きになってピアノはすごいと思った・ 難しくてできないところが合うようになった時の達成感がこんなに大きいのだと実感した・ ソロの時よりも 2人で練習する時間も入れてピアノに向かう時間が増えた・ 一緒に弾くことで連帯感が生まれピアノを弾いている時楽しかった・ 曲をイメージしたり話し合ったりすると、音楽が変わるんだなと思った・ ピアノは正直苦手だけど、授業を通してピアノの楽しさに気がついた |
|--|

4. 考察

1) 音楽的能力における成果

4つの項目「リズム」「テンポ」「通して弾く」「タイミング」は、保育者として子どもの前でピアノを弾く時、全て必要なピアノスキルである。アンケート結果から、全ての項目において「できなかった」と回答した学生はおらず、連弾に取り組んだ学生がこれらの能力を習得できたことがわかる。

2人で一緒に演奏する連弾では、どちらかに無意識でテンポの乱れが起きれば演奏を継続することは難しくなるため、テンポの統一と止まらずに通して弾くという両項目には相互作用がある。

2人で息やタイミングを合わせるという項目は具体的に、曲の出だしと終わり、リタルダンドなど速度変化が必要とされる部分であるということが授業実践でわかった。保育者として子どもの歌唱伴奏をする際、出だしのタイミングを指示したり子どもに合わせてくれる力が必要とされる。現場で活用できるピアノスキルを連弾から習得できる可能性がある。

4つの項目の中で最も興味深かったものは「リズム」についてである。福井(2012)は保育者養成校における付点リズム指導法について、保育の現場では付点リズムを含む歌が多く用いられていることから正確なリズム感覚を身に付ける必要性を述べている⁽⁹⁾。器楽の授業では、付点リズム習得が難しい学生をよく見るが、連弾実践を通して付点の正確なリズムを弾けるようになった学生がいた。付点を弾く際、相

手が弾く四分音符や裏拍にその付点リズムを合わせる練習をしたことで、自然と付点のリズムが身についたのだ。連弾では、リズムやパッセージなどねらいに合わせたピアノスキルを他者と一緒に演奏することで習得できる可能性があるということがわかった。

2) 教育的効果

学生の自由記述からは、2人でピアノに取り組むことで協調性が育まれる姿が見られた。2人で同じ曲に取り組む、練習を重ねどのように弾きたいか話し合い仕上げていく共同作業の中で、学生は他者とのコミュニケーションを大切にしていた。そして、パートナーと一緒に音楽するということから合わせる力や、一緒に演奏する難しさ、また楽しさの体験はアンサンブル教育という視点からも連弾を実践することは有効であるといえるだろう。

3) 学生のピアノに対する心境の変化

連弾を通して見える学生の姿を一言で述べるならば、「ピアノとの距離が近くなった」ということである。ピアノに向き合う時間の増加、2人で弾けるようになった時の達成感、ソロでは出せないピアノの響きに触れたこと、など連弾を通して体験した多くのことが学生のピアノに対する意識を変化させたといえる。自由記述には、「連弾がとても楽しかった」「ピアノを楽しめるようになった」と書いた学生が多くいた。ピアノを面白い楽しいと感じることは、子どもの前でピアノを弾く保育者としてまさに理想の姿である。

5. 結論

連弾実践を通して「音楽的能力の習得」「教育的効果」「学生のピアノに対する心境の変化」においてそれぞれ学習効果がみられたことから、保育者養成校におけるピアノ学習の取り組みの一つとして連弾は有効であるといえる。ソロでは得ることが難しい学びや、ピアノに対する学生の意識変化を期待することができる結果となった。

6. 今後の課題

1) 教材開発

音楽的能力の習得についてリズムやパッセージ、和音などねらいに応じた教材を

活用することでピアノスキルの向上につながる可能性があるということから、教材研究をしていくことが必要である。現在、保育者養成校における連弾教材は非常に少なく、藤澤孚の「ペアで楽しむピアノ教本」がある⁽¹⁰⁾。授業の中で導入や活用しやすい連弾教材があれば、連弾実践への取り組みも増えるだろう。

2) 連弾教育を普及させていくこと

今後、多くの保育者養成校で連弾が実践されることを願うとき、授業計画や指導法の具体例を研究発表していく必要がある。ピアノ授業の中でソロとは異なる視点からの学習アプローチの一つとして連弾が有効であるということを経験していき、今後研究していくべきだろう。

おわりに

授業を通し最も印象に残ったことは、学生の笑顔である。弾けたときや上手く息が合った時だけでなく、上手く弾けなかった時やタイミングが合わなかった時にもたくさんの笑顔がみられた。それは、学生自身がピアノのおもしろさや音楽の楽しさを感じ、他者と一緒に音楽を共有している姿であった。保育者として必要なピアノスキルを習得し音楽を子どもと一緒に楽しむことのできる先生を育成するために今後も研究を深めていきたい。

注

- (1) 幼稚園教育要領解説 平成20年10月 文部科学省 p.165
保育所保育指針解説書 平成20年4月 厚生労働省編 p.97-98
- (2) 高木誠, 稲葉順子, 鈴木賀子, 野村麻里, 平野智美, 和田淳一(2008)「連弾の研究—各教員の指導報告から—」『千葉経済短期大学部研究紀要』第4号 p.109-121
田中慈子(2015)「保育者養成校における学習意欲を高める音楽の指導法」『京都光華女子大学 研究紀要』第53集 p.109-118
奥村裕子, 菊田知子(2016)「保育者・教員創生におけるピアノ授業科目での試み—ピアノ伴奏に対する感性の高まりに着目して—」『東京家政大学 研究紀要』第56集 p.31-39
- (3) 宮本良樹(1988)『ピアノ絵本館⑤サンサーンス作曲 動物の謝肉祭』全音楽譜

出社

- (4) 安蒜佐知子, 川田千春, 渋谷絵梨香, 鈴木奈美, 秋敦子, 秋透, 内田美雪, 大宝博, 村上由紀(2015)「美しく響くピアノ連弾(上級×上級) ディズニー1、2」ヤマハ出版
- (5) 安蒜佐知子, 川田千春, 渋谷絵梨香, 鈴木奈美, 森真奈美(2015)「いちばんやさしいピアノ連弾 ディズニー名曲集」ヤマハ出版社
- (6) 秋敦子, 秋山さやか, 安蒜佐知子, 内田美雪, 大宝博(2014)「初級×中級 両方主役の連弾レパートリー クラシック」ヤマハ出版
- (7) 大村典子(1994)「大村典子ファミリーピアノ連弾集 1 わくわくチャレンジ, 2 うきうきチャレンジ」音楽之友社
- (8) 秋山さやか, 安蒜佐知子, 大宝博, 川田千春, 渋谷絵梨香, 鈴木奈美(2017)「初級×初級 両方主役の連弾レパートリー ディズニー名曲集①」ヤマハ出版
- (9) 福井真裕子(2012)「付点リズム」の指導法に関する一考察—保育者養成課程でのピアノ初心者への試みから—『京都聖母女学院短期大学 研究紀要』第 41 集 p.75-85
- (10) 藤澤孚(2013)「教員・保育士養成のための ペアで楽しむピアノ教本」音楽之友社

参考文献

白石景一, 中村浩美(2012)「保育者養成校における音楽指導法の研究—第 6 報—主にピアノ初心者の指導法について」『長崎女子短期大学 研究紀要』第 36 号 p.37-44

山口雅敏(2011)「ピアノ連弾の効果的な導入法と演奏法—ドイツからフランスに受け継がれた「5つの音による」連弾作品を使って—」『教育諸学研究』第 25 巻 p.139-172